

学校教育目標	かしこく なかよく たくましく 心ゆたかに
目指す学校像	学びを実感できる学校 安心で安全な学校 信頼され、地域の誇りとなる学校
重点目標	1 教育指導の水準向上 2 誰一人取り残さない教育の推進 3 家庭・地域との連携 4 安心で安全な教育環境の整備 5 教職員の資質向上とチームとして対応する組織体制の確立

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	＜現状＞ ○昨年度全国学力・学習状況調査では国語、算数ともに全国平均と比べて+2Pと平均に達し、市学習状況調査でも概ね平均に達している。 ○市の学習状況調査では、自尊意識の質問項目で市の平均より1～2P程度低く、否定的な回答も+5～6Pであった。 ○児童の授業への参加態度はどの学年でも比較的良好で落ち着いており、真面目に取り組む児童が多い。 ＜課題＞ ○日頃の授業において既習事項をもとにした「自分の思いや考えを表現する力」の不足や自己肯定感がやや低い傾向が見られる。 ○本校の体育科の授業において思考力、判断力、表現力の向上のための指導法や効果的なICT機器の活用を進める必要がある。	・学びのポイントを意識した授業改善	①学びのポイント「じ・し・や・く」を合言葉に個別最適化された授業に取り組む。 ②目標設定と振り返りを重視した授業展開に取り組む。 ③年間を通して1人2回の授業公開を行い、管理職から指導・助言を行う。	①「学びの指標」の主体的な学びの項目が3.3P以上、又はよい授業のアンケート「因子4」の児童の活動の項目が全学級目標値＋－1P以内になっているか。				
		・思考力、判断力、表現力向上のための授業実践とICTの活用	①教育委員会から指導者を招聘し、学校課題研修の方向性や手立てについて指導、助言をいただく。 ②学校課題研修で取り組んできた研究をまとめ、手立ての検証を行い、各自の授業で実践する。 ②体育科の授業において、二画面動作解析アプリ「プレボス」等、ICT機器を効果的に活用していく。	①年度末の校内研修の振り返りで、研修課題の解決に向けて取り組んだ手立てが効果的であったという評価が職員の90%に到達しているか。 ②年度末の校内研修の振り返りで、体育科の授業において効果的にICT機器を活用するなど「スポーツを科学する」授業実践ができたという評価が教員の90%に達しているか。				
2	＜現状＞ ○昨年度市の学習状況調査では「学校に行くのが楽しい」の設問に肯定的回答をする児童が多く、市の平均を1.5P程度上回っている。 ○困ったときに相談しようと思うかを問う設問について肯定的回答は市の平均を全ての学年で上回っている。 ＜課題＞ ○スクールダッシュボードを活用し、児童を支援する仕組みを確立する必要がある。 ○教室に入れない児童や配慮を要する児童について学校全体で把握し組織的な取組を促進する必要がある。	・児童一人ひとりの実態の把握と教育支援・教育相談体制の確立	①「心と生活のアンケート」やスクールダッシュボード等を活用する。 ②児童理解研修を毎月1回開催する。 ③事案に応じ、随時ケース会議を開き、組織的で迅速な対応を行う。 ④事案に対して、定期的な「見届け」を行う。	①「心と生活のアンケート」やスクールダッシュボード等客観的なデータに基づいた教育支援、教育相談を行うことができたか。 ②児童理解研修を計画通り実施することができたか。 ③ケース会議を適切に開催し、支援の方向性を整理し、関係機関との連携も含め組織的に対応することができたか。				
		・さくらんルームの活用と関係機関との連携	①さくらんルーム活用について教職員間や保護者面談で共通理解を得る。 ②SCやSSWと情報共有や対応の方向性について話合う場を設ける。 ③校外の関係機関と情報共有を進め、連携を図る。	①マニュアルを活用しさくらんルームを利用・活用することができたか。 ②学校評価アンケートの保護者からの相談事の項目で肯定的評価が85%に達しているか。				
3	＜現状＞ ○地域の児童センター、福祉協議会、デイサービスセンターなど学校と地域の施設との関わりが深く協力的である。学校支援のボランティア、PTAからの支援も得ながら学校としての協働活動が実施されている。 ＜課題＞ ○デイサービスセンターとの交流をメインにした豊かな心を育む活動について、見通しをもった活動プランを学校、保護者、地域で共有していく必要がある。 ○学校の状況をホームページやスクリレ、学校安心メールを有効活用し定期的に情報発信する必要がある。	・学校の情報発信と地域施設との協力体制の継続	①学校の情報発信をホームページやスクリレを活用して定期的に行う。 ②デイサービスとの日常的な交流と地域の施設との学習、行事での関わりを教育課程上に位置付ける。	①学校評価アンケート（保護者）の情報公開の項目で肯定的評価が90%に達しているか。 ②教育課程上にデイサービスとの交流が各学年位置付いているか。				
		・学校運営協議会を核とした家庭・地域との連携	①学校運営協議会での地域連携について熟議を行う。 ②学校運営協議会の内容を周知する。 ③PTA活動、図書・学習ボランティア活動で協力・連携を図る。	①学校評価アンケート（保護者）の地域連携の項目で肯定的評価が90%に達しているか。 ②PTAの旗振りや行事の際の連携、図書、学習ボランティア活動で連携することができたか。				
4	＜現状＞ ○施設・遊具の老朽化が進んでいるものが見受けられる。 ○体育用具の破損により、使用できないものがある。 ＜課題＞ ○児童の安全を確保するための計画的、組織的な安全点検の実施が求められる。 ○計画的に施設修繕、備品の修繕、入れ替えを進める必要がある。 ○教材教具、備品の管理補充等を適切に行うために確実な予算の執行。	・安全・安心な教育活動の推進と環境整備	①施設設備等の状況一覧を作成する。 ②懸案個所に挙げられる修繕・対応が必要な個所については児童の安全を第1として早急に対応する。 ③校内巡視（毎日）、安全点検（毎月）を確実に実施し、組織的に対応する。	①施設設備等の状況一覧を作成し、一覧に基づき、必要に応じて整備等を進めることができたか。 ②定期的な安全点検に基づき、適切な修繕を行うことができたか。				
		・教材・教具及び学習室の計画的な管理・補充	①教材・教具の補充について、計画を立案し計画的な補充・入れ替えを行う。 ②学習室の整備を行い、クールダウンスペースやグループ学習で使えるよう整備する。	①学校評価アンケート（教職員）の施設・設備の項目で肯定的な評価が90%に達したか。 ②学習室の整備、教材・教具の補充・入れ替えを計画的に実施することができたか。				
5	＜現状＞ ○体育科の校内課題研究を中心に積極的に授業公開するなど、授業力を高め合う土壌がある。 ○これまでの経験や校務分掌から、積極的に自己の力量を高めようと研修を受講したり、試験に臨んだりする教職員が多い。 ＜課題＞ ○教職員一人ひとりのキャリアビジョンを明確にする必要がある。 ○キャリア形成に係る研修受講に向けての意識の向上と取組を促進するための、情報提供と環境づくりが必要である。	・教職員一人ひとりのキャリアビジョンの明確化	①当初面談による中長期的な目標や希望する研修・役割を確認する。 ②キャリア段階に応じた役割や活躍の機会を用意し、定期的に振り返りの機会と管理職による定期的な対話により、目標達成状況を確認する。	①各職員が、設定した目標に向けて研修に取り組み、自己評価シートの研修について95%がB評価以上に達したか。				
		・校内外における成長の機会の創出	①校内課題研究の体育の授業を柱とし、日々の授業における実践研究を重視し、機会や方法を提供する。 ②外部研修や地域、他校との合同、公開授業についての情報提供を行い、参加を支援する。 ③業務をチームで対応することで、OJTの機会を奨励する。	①校内研究教職員アンケートで肯定的回答が90%に達したか。 ②教職員アンケートの協働・学び合いの項目で肯定的回答が90%に達したか。				

